



TOEIC Bridge®と TOEIC®テストのスコア比較表

| | | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| TOEIC Bridge | 90 | 100 | 110 | 120 | 130 | 140 | 150 | 160 |
| TOEICテスト | 230 | 260 | 280 | 310 | 345 | 395 | 470 | 570 |

スコア比較表をご覧ください際の注意事項

- ・ この表は 15,569 名の日本と韓国の受験者データを基に、TOEIC Bridge のスコアからそれに対応する TOEIC スコアを予測したものです。TOEIC Bridge の受験者数は日本と韓国が最も多いため、両国からランダムにサンプルを抽出しています。
- ・ 対象サンプルは 2000 年 11 月から 2005 年 9 月までの間に、TOEIC テストと TOEIC Bridge の両方を 6 ヶ月以内に受験しています。受験の形態は公開テストと IP の両方が含まれます。またその多くは最初に TOEIC Bridge を受験し、その後に TOEIC テストを受験しています。
- ・ サンプルの平均年齢は 20 歳で、高校・短大・大学生が大半を占めており、高校生が全体の 23%、短大生・大学生が 31%となります。
- ・ このようなサーチにおいてはサンプルが変わると結果の値が変わることがあります。
- ・ TOEIC Bridge のスケールが 20 点から 180 点であるのに対し、上記の表で 90 点から 160 点までしか掲載されていない理由は、TOEIC Bridge160 点以上及び 90 点未満のスコアレンジにおいては有効なデータと検証されなかったためです。TOEIC Bridge では 90 点未満に対しても評価できますが、TOEIC ではそのレベルに対応した問題がほとんどないため、TOEIC Bridge90 点未満に対応する統計上意味のあるデータを得ることができません。また TOEIC Bridge は 180 点まで評価することができますが、TOEIC にはそれ以上のレベルを評価する問題が多数含まれているために、両者を比較して統計上意味のあるデータを得ることができません。そのため、TOEIC Bridge160 点以上及び 90 点未満のスコアレンジでは比較対象として適切ではないと ETS が判断しました。
- ・ 両テストの開発機関である Educational Testing Service (ETS)は、TOEIC Bridge150 点以上のレベルにおいては TOEIC テストの方がそのレベルに適した設問が多くなることから TOEIC テストの受験を奨励しております。

※ETS は TOEIC Bridge の受験者の実態に即して検証を行い、これまで TOEIC テストへの移行のガイドラインとしていた TOEIC Bridge のスコアを 160 点から 150 点に変更いたしました(2007 年 8 月)。

資料公開日:2006 年 5 月

資料作成:財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

<本件に関するお問い合わせ先>

財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会

東京業務センター 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル TEL (03)5521-6033

大阪業務センター 〒541-0059 大阪市中央区博労町 3-6-1 御堂筋エスジービル TEL (06)6258-0224

公式ホームページ<http://www.toeic.or.jp>